

第2期中期事業計画（愛媛支部）

- I. 果たすべき役割
- II. 第1期中期事業計画の評価
- III. 第2期中期事業計画の重点項目
 1. 使命の追求
 - (1) 生活困窮者への援助の積極的推進
 - ①無料低額診療事業、無料低額利用事業の推進
 - ②生活困窮者支援事業（なでしこプラン）の充実
 - (2) 地域医療への貢献
 - (3) 総合的な医療・福祉サービスの提供
 2. 新たな分野への挑戦
 - (1) 医療・福祉の周辺分野への取り組み
 - (2) まちづくりへの寄与
 3. 経営基盤の強化
 - (1) 経営の健全化
 - (2) 医療・福祉サービスの質の向上
 - ①済生会を支える人材の育成
 - ②施設・設備の近代化の促進
 - ③先駆的かつ実践的な経営手法の研究、開発
 - ④スケールメリットを活用した取り組みの推進
 - (3) 積極的経営の推進
 4. 済生会ブランドの確立と発信
 5. コンプライアンスの徹底
 6. 国際連携の推進
 7. 災害対策の推進

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

1. 果たすべき役割

愛媛県済生会支部は、昭和6年7月1日に発足して以来、施薬救療の済生会創立の精神を引き継いで、愛媛県内の医療・福祉の充実、発展のための諸事業に取り組んできた。

医療事業は、昭和14年の今治診療所の開設に始まり、現在では4病院1診療所において、一般病院では困難とされるべき地医療や救急医療等を提供するなど、公的医療機関として地域の医療を守っている。

また、社会福祉事業については、昭和44年の松山乳児保育園の開設を皮切りに特別養護老人ホーム4施設、介護老人保健施設4施設を順次整備するとともに、各種の事業を積極的に展開し、医療施設との連携のもと、保健・医療・福祉の一貫した体制により、県民福祉の向上に努めている。

今後、少子、高齢化社会が急速に進展する中で、社会保障制度改革の実施など、支部の事業を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されるが、そうした中であっても、済生会創立の精神を引き継ぎながら、「生活困窮者への援助の積極的推進」「地域医療への貢献」「総合的な医療・福祉の提供」という済生会として果たすべき役割を発揮しつつ事業の展開を図る。

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

II. 第1期中期事業計画の評価

1 生活困窮者への援助の積極的推進

無料低額診療事業については、4病院1診療所の5施設中、無低率10%を越えているのは、5年前の平成25年度は松山病院のみだったが、第1期中期事業計画最終年度である平成29年度は松山病院に加え今治第二病院も10%以上を達成できる見込である。今治病院、西条病院は、無低率は上昇したものの、10%基準は未達となる見込である。小田診療所については、僻地に位置し人口減の影響もあり、無料低額診療の実績は芳しくない。

無料低額老健利用事業については、4施設全て10%基準を達成している。

なでしこプランについては、計画どおりに実施した上、松山病院においてはホームレスを対象とした健康診断を実施した。

2 地域医療への貢献

松山・今治・西条の3病院は、地域医療の中核病院として医療機能の充実を図りながら、救急医療への参画など地域で求められる医療を提供するほか、へき地診療、済生丸による離島検診事業など、公的医療機関として地域に不足する医療の提供に努めたところであり、概ね計画は達成できた。

3 総合的な医療・福祉の提供

地域ごとの医療・福祉の各施設が連携し、それぞれの機能を発揮しながら総合的な運営が可能となるよう、松山・今治・西条・小田の地区ごとに医療・福祉センターを設置し、生活に密着した急性期から慢性期、在宅まで切れ目のない医療・福祉サービスの提供に努め、概ね計画は達成できた。

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	1. 使命の追求
重点項目名	(1) 生活困窮者への援助の積極的推進 ①無料低額診療事業の推進
現状の課題	<p>【松山病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在と将来の不安への支援 ・候補患者の抽出と分かりやすい窓口 <p>【今治病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの地道な周知活動と合わせ無低実施率も伸びたが、10%を達成する事ができていない。MSWの経験年数が短い事もあり、十分にニーズを拾い上げ、申請につないでいく事ができていない。 <p>【今治第二病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの地道な周知活動により無低実施率も伸びた。実績は、平成25年度は6.0%、平成26年度は7.1%であったところ、平成27年度は11.6%と基準を達成した。平成28年度は9.1%であったが、平成29年度は10%以上を達成できる見込である。 ・当院は小規模であり人員と資金が不足する中、無料低額診療事業対象患者の掘り起こしを継続するとともに、無料低額診療事業にあたらぬ生活困窮者援助のための事業の拡大が課題である。 <p>【西条病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いまだに無料低額診療事業や済生会自体についてもあまり知らない地域住民も存在しており、啓発活動の強化が今後の課題としてあげられる。 <p>【小田診療所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当診療所における診療圏の人口は、2,500人を割っており、生活保護実患者数も6名と非常に少ない。無料低額診療事業対象者を掘り起こすことは非常に困難な状況にある。
実施計画	<p>【松山病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談窓口（専従社会福祉士の起用） ・安心感を持って相談できるようスタッフの名札表示（資格） ・行政および地域包括支援センターとの連携推進 ・対象患者の可視化（非課税・生保）のシステム構築（外来・入院） <p>【今治病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者への無低周知の強化、MSWの教育などを行い、必要な人が無低申請を行う事ができるように対人援助技術などの質の向上に努める。

実施計画

- ・今まで同様に院内誌・院外誌等で、職員や他機関への周知を行う。
- ・院外では年6回程度健康相談会を継続する。
- ・行政機関関係各所・民生委員・社会福祉協議会など地域の関連機関への訪問をさらに強化する。

【今治第二病院】

- ・平成29年度現在、目標の10%は超えている。特に入院患者への積極的な声掛け、働きかけ行い、また収支のバランスも考慮しつつ、現状を維持していく。

【西条病院】

- ・これまで市内を中心に活動してきた公民館やハローワーク等での健康相談を市外まで拡大する。また、社会福祉課の活動範囲を山間部や過疎地域等の郊外まで拡大し、済生会ブランド発信や生活困窮者発掘に取り組んでいく。

【小田診療所】

- ・今後とも内子町と連携をとり、内子・五十崎地区を含めた民生児童委員・見守り推進合同会議や済生会小田診療所懇談会を行い、行政窓口、福祉事務所、ボランティア団体等、院外の各種団体とのつながりを強化する。

松山病院	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	22,420	22,550	22,500	22,530	22,550
総患者延数	224,410	225,450	224,948	225,217	225,486
無低率	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
フラグ	1	1	1	1	1
今治病院	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	21,700	21,241	22,654	24,088	25,542
総患者延数	240,980	249,885	251,709	253,552	255,414
無低率	9.0	8.5	9.0	9.5	10.0
フラグ	0	0	0	0	1
今治第二病院	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	2,470	2,457	2,466	2,470	2,477
総患者延数	23,292	24,570	24,668	24,706	24,775
無低率	10.6	10.0	10.0	10.0	10.0
フラグ	1	1	1	1	1
西条病院	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	13,529	1,500	1,570	1,620	1,620
総患者延数	151,967	16,200	16,200	16,200	16,200
無低率	8.9	9.3	9.7	10.0	10.0
フラグ	0	0	0	1	1

小田診療所	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	690	710	720	740	760
総患者延数	10,000	9,300	8,600	8,100	7,600
無低率	6.9	7.6	8.4	9.1	10.0
フラグ	0	0	0	0	1

無料低額診療事業 10%基準達成施設数（病院・診療所）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	2	2	2	3	5
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	1. 使命の追求
重点項目名	(1) 生活困窮者への援助の積極的推進 ①無料低額利用事業の推進
現状の課題	<p>【にぎたつ苑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を概ね達成している。 <p>【希望の園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣では同事業を展開する事業所は当園のみであるが、施設の特徴として十分なPRができておらず、実際に扶助が必要な方の認知が不足している可能性がある。 <p>【いしづち苑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無低率は毎年10%を超えている。 <p>【ふじの園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度まで15%前後を維持できている。
実施計画	<p>【にぎたつ苑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料低額対象者が死亡等のため人数の減少する可能性があるため、HP・施設外広報活動等を通じて、無料低額老健利用事業の説明を行い、無料低額対象者の一定の確保の継続をし、現状の実施率を維持する。 <p>【希望の園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当施設の行う無料低額老健利用事業は地域においての済生会の特色の一つであることを積極的にPRする。自治体をはじめとする関係機関との連携を進める。 <p>【いしづち苑】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西条病院を退院し、施設入所介護を必要とする利用者は無低事業の継続利用が可能であることを説明する。 ・月に1回西条病院の受付待合にて実施されるケアマネによる医療・介護相談会に訪れる方へ、事業の説明等を行う。 ・なでしこプランの一環で行っているハローワークでの無料健康教室と同時に介護相談を行う。 <p>【ふじの園】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所時に支援相談員が諸事情を聞き、積極的に相談に乗る。 ・パンフレット作成し、支援相談員等と職員が連携し積極的に取り組んでゆく。

にぎたつ苑	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	2,525	2,600	2,600	2,600	2,600
総利用者延数	23,405	23,000	23,000	23,000	23,000
無低率	10.8	11.3	11.3	11.3	11.3
フラグ	1	1	1	1	1
希望の園	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	4,329	3,450	3,450	3,450	3,450
総利用者延数	31,755	34,500	34,500	34,500	34,500
無低率	13.6	10.0	10.0	10.0	10.0
フラグ	1	1	1	1	1
いしづち苑	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	2,190	1,942	2,039	2,160	2,168
総利用者延数	17,155	19,418	19,491	19,637	19,710
無低率	12.8	10.0	10.5	11.0	11.0
フラグ	1	1	1	1	1
ふじの園	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
無低延数	875	875	875	875	875
総利用者延数	8,750	8,750	8,750	8,750	8,750
無低率	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
フラグ	1	1	1	1	1

無料低額利用事業 10%基準達成施設数（老健）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	4	4	4	4	4
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	1. 使命の追求
重点項目名	<p>(1) 生活困窮者への援助の積極的推進</p> <p>②生活活困窮者支援事業(なでしこプラン)の実施</p>
現状の課題	<p>平成28年度の実績は次のとおりであり、計画していなかったものを加えて実施することができた。</p> <p>1 計画していたもの</p> <p>(1) 済生丸健診事業 松山病院、今治病院、西条病院、ほか愛媛県内の事業所が実施</p> <p>(2) 更生保護施設の健診事業 松山病院、今治病院が実施</p> <p>(3) 健康相談事業 今治病院、今治第二病院が実施</p> <p>(4) 訪問生活・健康相談事業 今治第二病院が実施</p> <p>(5) 無料健康教室事業 西条病院が実施</p> <p>(6) 職業訓練生対象健康相談・BSL講習会 西条病院が実施</p> <p>(7) 求職者等対象健康相談事業 西条病院、いしづち苑、西条特別養護老人ホームが実施</p> <p>(8) 生活困窮者等への診療事業 小田診療所が実施</p> <p>2 計画にはないが実施したもの</p> <p>(1) 生活困窮者健康診断事業 松山病院が実施</p> <p>(2) 患者送迎事業 松山病院が実施</p> <p>(3) 訪問健康診断事業 今治病院が実施</p> <p>病院以外の施設については、特に計画を策定していなかった。</p>
実施計画	<p>病院・診療所については、これまで同様なでしこプランを計画どおり実施する。</p> <p>福祉施設については、病院・診療所が行う計画に協力するとともに、利用者負担軽減制度を広く利用者に周知し、制度利用促進を図る。</p>

福祉施設が、病院の計画に協力した場合は、二重計上せず主体となった病院の欄のみに記入する。松山病院、今治病院、西条病院、ほか愛媛県内の事業所が合同で実施する済生丸健診事業の利用者数は支部事務局の欄に記入する。

各施設が実施する事業の詳細は、平成29年12月21日付本部通知「第三次なでしこプラン（済生会生活困窮者支援事業）5ヵ年計画の策定について」（済事発第447号）に対して提出した計画のとおりとする。

第三次なでしこプランでは、住まい、就労、教育等の問題を抱える生活困窮者にも配慮する。

実施計画

なでしこプラン

- ・ 無料健康相談、福祉施設健診、患者送迎
- ・ 保護観察対象者社会貢献活動
- ・ 無料健康相談、福祉施設健診、がん患者就労支援
- ・ 福祉施設へのリハビリスタッフ派遣
- ・ 無料健康相談、AED講習会
- ・ 高齢者世帯実態把握
- ・ 患者送迎
- ・ 済生丸巡回診療

※ 福祉施設が、病院の計画に協力した場合は、二重計上せず主体となった病院の欄のみに記入する。

なでしこプランの対象者数

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	4,038	4,027	4,166	4,164	4,293
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	1. 使命の追求
重点項目名	(2) 地域医療への貢献
現状の課題	<p>【松山病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療の貢献（断らない救急医療・またせない手術）について、診療時間内での救急車受付を実施しているが、救急車以外の救急患者対応について検討が必要 ・安心できる在宅移行（つなぎ役、フォロー、相談）について、入院時から退院に向けて取り組んでいるが、今後入院予約からのアプローチが必要 ・災害時に頼れる病院づくりについて、災害時の避難マニュアル等はあるが、診療機能維持についてのマニュアル作りについて今後検討が必要 <p>【今治病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の主な課題は不足する高度急性期病床、回復期病床の充足、救急医療体制の確保、関係機関相互の連携体制の構築、在宅医療の推進、地域医療に必要な医療従事者の確保・定着である。 ・当院においては、救急医療の院内体制の整備、医師など医療従事者の確保と負担軽減策の実施、人材育成、関係機関との連携が課題である。 ・また、救急に必要な病床の確保や高度医療機器導入の検討も必要である。 <p>【今治第二病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今治医療圏の人口は減少傾向にある一方、75歳以上の高齢者数は2020年まで増加する傾向にある。外来患者において今後、虚血性心疾患並びに脳血管疾患のいわゆる循環器系について増加が予想されるが、当院においてはそれらに対応する診療科がなく、診療科の医師の確保が課題である。一方、入院については近隣に回復期病院（急性期からの転換等）ができてきたことで今後益々競合が予想される。 <p>【西条病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の唯一公的医療機関として、急性期医療を担っている。いわゆる5疾病については、脳神経外科、循環器内科の常勤医師は確保できているが、いずれも1名で診療にあたっており、まずは、これらの診療科の医師確保が重要課題で

<p>現状の課題</p>	<p>ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5事業については、「断らない救急」をめざし、救急医療体制の充実を図るため地域交流会等を開催し、救急隊や地域の医療機関と「顔の見える関係」を構築しているが、マンパワー不足等の問題により、救急受入れが困難なケースもある。 <p>【小田診療所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療圏である小田地区は、人口2,500人を割り高齢化率も52.0%と典型的な過疎高齢化地域である。平成27年5月に無床診療所に転換したため、機能は縮小されたが、併設している老人保健施設「ふじの園」と特別養護老人ホーム「緑風荘」、また内子町を初め関係行政機関や地域住民組織とも幅広く連携し、保健・医療・福祉の灯をともし続けることが課題である。
<p>実施計画</p>	<p>【松山病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正人員の把握と人事計画 ・臨床研修医受け入れ拡大 ・医師の派遣 ・潜在看護師の掘り起こし ・学生等の研修受け入れと見学（大学・専門学校） ・学生への支援（奨学金制度の推進） ・救急輪番体制の維持 ・救急応需率（断らない救急医療） ・緊急手術体制の強化（またせない手術） ・地域連携室の強化と入退院支援のセンター化 ・救急隊との合同カンファレンスの充実 ・地域住民との災害訓練と大規模災害時の支援ルート ・施設・整備の協同利用 ・病院間の地域ネットワークの構築 ・システムを活用した診療情報の開示 <p>【今治病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本院は急性期病院、がん専門病院（地域がん診療連携拠点病院を2本柱と予防医療の推進・強化を行い、この方針を進めるために大学医局、県、市、医師会など関係機関との連携と信頼関係の構築をより一層強固なものとしていきたい。 ・また、救急に必要な病床数の増加（病床再編）や高度医療機器導入の検討を計画的に進めたい。必要な人員については、人員の定数を定め、計画に沿った採用を行い、人件費のコントロールと人員確保を両立させたい。

・医療の質については、クリニカルパスの充実とDPCの診療内容の点検等で標準化を図り、病院機能評価やISO9001など定期的に第三者の評価を受審することで、質を確保したい。

・人材の育成・質向上については、済生会を含む院内外の研修等に積極的に参加させること、また、愛媛大学と医療連携にかかる協定を結んでおり、各職種間のレベルアップが図れるものと期待している。

【今治第二病院】

・回復期リハビリテーション病棟入院料1への転換を図ると共に、回復期病床として病院から在宅への切れ目のないリハビリ、介護、福祉の提供とサービス内容の充実、加算取得を目指した在宅部門の大規模化の実現、短期リハビリ利用者の増加と中重症者リハビリの充実、言語聴覚士による摂食指導などのリハビリの充実、通所リハビリテーションから地域リハビリテーションへの流れを確立することで地域における回復期機能の一翼を担うよう努めていく。また、今治医療圏において西部地区に偏在する回復期病棟を東部地区に設立して、地域医療バランスを改善するとともに、医療と介護・福祉のシームレスな連携システムの構築に努める。

【西条病院】

・①病床機能の分化及び連携の推進、②在宅医療の充実、③医療従事者の確保・養成に取り組む。

・当院は地域で唯一の公的医療機関であり、17の診療科のうち、外科、整形外科、歯科口腔外科で観血的手術を施行できる体制を整備していることから、現行の高度急性期病床、急性期病床、回復期病床機能を維持していく。

・また、医療従事者の確保対策として、医師については、一人診療科（循環器内科、脳神経外科等）の増員に向けて、幹部による大学訪問を継続し、看護師については、7対1看護体制維持に向けて看護奨学生の募集を継続する。

・さらに、最新医療機器の導入及び院内外研修参加を支援することで、人材確保・育成に取り組んでいく。

・災害医療については、DMATへの参加はできていないが、引き続き、消防隊と合同でトリアージ訓練等を実施していく。

・へき地や限界集落に対して済生丸巡回診療や健康教室等を積極的に推進していく。

【小田診療所】

当地域は典型的な過疎高齢化地区であるため、患者需要、将来的な人口動態を的確に分析し、地域における立ち位置に鑑みて5疾病5事業のうち、へき地医療

実施計画

実施計画	<p>に重点を置いて取り組むものとする。また、地域に密着した公的医療機関として、地域医療への貢献も果たす。</p> <p>(1) 小田地区住民の日常生活における「かかりつけ診療所」としての役割と一層の信頼構築を図る。</p> <p>(2) 済生会松山病院との連携を検討するとともに内子町の他病院との連携についても、内子町と協議しその支援、助言を得て関係構築を図る。</p>
------	--

職員充足計画(医師)

人

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山病院	55.0	55.0	55.0	55.0	55.0
今治病院	46.0	46.0	46.0	46.0	46.0
今治第二病院	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
西条病院	28.0	28.0	28.0	28.0	28.0
小田診療所	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0

職員充足計画(看護師)

人

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山病院	239.0	239.0	239.0	239.0	239.0
今治病院	230.0	230.0	230.0	230.0	230.0
今治第二病院	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
西条病院	159.1	159.1	159.1	159.1	159.1
小田診療所	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

職員充足計画(医師)

%

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値					

職員充足計画(看護師)

%

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	1. 使命の追求
重点項目名	(3) 総合的な医療・福祉サービスの提供
現状の課題	<p>【松山病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山医療福祉センター内の施設間の連携 ・アフターフォロー体制 ・回復期病院との連携強化 <p>【にぎたつ苑】</p> <p>在宅復帰率実績</p> <p>平成25年度 72.5%</p> <p>平成26年度 74.1%</p> <p>平成27年度 72.0%</p> <p>平成28年度 62.2%</p> <p>在宅復帰率は高い水準で目標を達成している。</p> <p>【松山訪問看護ステーション】</p> <p>訪問看護・訪問リハビリ・通所サービスの提供を行っている。重度障害児・者の通所サービスでは、療養通所介護の中に、児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護・日中一時支援を多機能型として位置付けており、希望者には宿泊サービスを行っているが、満床になり、お断りせざるを得ない場合がある。</p> <p>【ハートフル】</p> <p>一般的な医療・福祉施設とは異なり収益手段が少ない上、補助や保険制度等の対象とならず経営基盤が脆弱であり、予算や職員が少なく手が回らない部分が多く、福祉と医療を結びつける機能が発揮できていない課題がある。</p> <p>【ワークステーションなでしこ】</p> <p>精神障害に発達障害が含まれ、当施設も発達障害の利用者が増加しているが、対応がむずかしく、精神障害者のケアをするための専門の資格を持つ職員が少ない。</p> <p>【松山特別養護老人ホーム】</p>

平成28年11月に松山市住吉二丁目に「済生会デイサービス三津」（老人デイサービスセンター定員20名）を新規開設。これで特養、短期入所、大小デイ2施設、ヘルパー、居宅、包括Cの7事業体制となり地域の高齢者に対するサービスが充実してきた。済生会松山病院は急性期病棟しかないため、幅広い連携を検討する必要がある。

【姫原特別養護老人ホーム】（ケアハウス含む）

特養入居者の病院受診時の待ち時間等、済生会グループでの優位性を活かした医療・福祉の連携を強化していく必要がある。

【松山乳児保育園】

高齢化、人口減少、核家族化がすすむ地域の中で誰もが分け隔てなく支え合い、そのニーズに応じた子育て支援をどう展開していくかが課題である。

【今治病院】

- ・各職種の人事交流が十分ではない。
- ・高齢者の入所施設は十分ではない。

現状の課題

【希望の園】

在宅復帰する利用者の多くは、継続的に医療が必要であったり、在宅介護サービスによる切れ目のない支援が不可欠である方がほとんどであるが、住居の改築や高額な介護機器の調達が必要になったり、老々介護による介護者不在などの問題も多い。対策として医療・介護の両分野において24時間対応の訪問サービス事業所の整備が求められるところである。

また、自宅での生活が困難な高齢者にあっても、住み慣れた地域で安心して暮らしていただくために、センター内に特別養護老人ホーム、又は在宅扱いとなる軽費老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅が整備されれば、在宅復帰の可能性が高まることに繋がり、より充実したサービスの提供が進められる。

医療の面においては、介護老人保健施設が提供できる医療は日常的な医療の範囲に留められているため、緊急的・専門的な医療が必要となった際の、併設医療機関をはじめとした地域の医療機関との密接な連携も重要である。

【今治第二病院】

今治地域の済生会には特別養護老人ホームならびに高齢者住宅がないため、患者、利用者の退院後の受け皿が充分でない。

当院と今治病院、老健希望の園の3施設を中心に、患者や利用者サービスの質の向上についての連携は図られているが、職員の施設間人事交流を促進することに

より、一層の連携を図る必要がある。

【西条病院】

地域内においては自院完結型の傾向が強く、都市部に比べて、機能分化も進んでいない状況である。

【いしづち苑】

平成27年2月に終の棲家である西条特別養護老人ホームが同一敷地内に設置されたことにより、これまでの西条病院からいしづち苑への流れが大きく変化している。当苑のある地域の住民は、長期間の入所を希望しており、在宅復帰に取り組む老健施設への入所は、本人及び家族ともにあまり望まれていないため、西条病院から特養へ流れて行く利用者が増えている。このようなことから、在宅復帰に積極的に取り組んだ後の空きベッドをいかに効率的に運用していくかが課題となっている。

【西条特別養護老人ホーム】

新規開設からこれまで、施設の安定的な運営に注力してきたため、総合的な福祉サービスが提供できているとは言えない。西条医療福祉センターの各施設が連携して総合的な医療・福祉サービスを提供していくことが今後の課題となっている。

現状の課題

【小田診療所】

当診療所は、介護老人保健施設「ふじの園」と特別養護老人ホーム「緑風荘」を併設しており、保健・医療・福祉の中核的综合施設となっているため効果的かつ効率的に活用できていると思われる。平成27年5月に無床診療所へ転換し機能が縮小となったが、今後とも急性期の患者や時間外の活動をスムーズに行うことが課題である。

【ふじの園】

小田地区では済生会が医療・福祉の中核を担っており、その一員である当施設は地域で唯一のリハビリ機能として益々重要となっているが、在宅生活に向けてのリハビリ機能の充実が課題である。

【緑風荘】

併設の小田診療所は無床診療所だが、夜間帯においても宿直・待機の医師が確保されており、連携が取れている。特養には歯科衛生士が常勤しており、口腔ケアに力を入れている。隣接する歯科診療所を受診できない入所者には、訪問診療も可能である。今後もこれらの機能を維持していく必要がある。

<p>現状の課題</p>	<p>高齢者のみならず、障害者、児童及びホームレス、刑務所出所者等の生活困窮者に対して、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービスの提供が求められるところ、本会は医療施設並びに老人、障害者及び児童を対象とする福祉施設を経営しており、対応力を持っていると言える。</p> <p>本部では、本会施設のみならず、患者、利用者、行政、外部団体とのつなぎ役として、「済生会地域包括ケア連携士」を育成し、包括的なサービス提供体制を充実することを目指している。</p> <p>県内においても松山、今治、西条、小田地区に散在する本会施設が連携するだけでなく、地元住民、行政、大学、他団体との連携も強化することを目指す。</p> <p>また、生活困窮者を検知する能力を高めること、施設固有のノウハウ等を他施設も活用できるような知識共有も必要となる。</p> <p>さらに、医師、看護師、介護士、保育士をはじめとする職員の充足にも留意する必要がある。</p>
<p>実施計画</p>	<p>【松山病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生を含めたボランティアの積極的推進 ・ 育児・介護など復帰しやすい環境づくり ・ 松山医療福祉センターの連携機能を強化のためのクリニカルパス ・ 松山市医師会在宅医療懇話会への積極的な参加 ・ 地域医療施設の人材育成の場（講演など） ・ 労働者への健康支援（健診アフターフォロー・健康情報の発信） ・ イベント管理の強化 ・ 患者満足度調査 ・ 充実した個室整備 ・ 患者が安心できるかかりつけ医紹介の推進（連携病院の可視化） ・ 在宅に向けての活動と支援 ・ 認知症に強い病院づくり ・ 老老介護に向けた介護力向上に向けての支援 ・ システムを利用した情報提供の検討（問診・診療科相談・薬処方内容・検査結果） ・ 労働者についての健康支援（健診アフターフォロー・健康情報の発信） ・ 連携病院への新任医師/新規導入機器/教育講演（人材育成への協力）の紹介（メール配信） <p>【にぎたつ苑】</p> <p>松山病院や近隣の病院、およびハートフルとの連携を深め、利用者の受け入れを率先して行い、中間施設としての老健の役割を全うし、高齢者の在宅での生活を</p>

支援する。現状の高い在宅復帰率を維持し、将来的に創設が見込まれる新基準（50%以上の高い在宅復帰率を要件とする超在宅強化型施設）に適応できる先進的な施設を目指す。

【松山訪問看護ステーション】

現在、木・金・土曜での宿泊サービスを実施しているが、人材が確保できるようなら水曜日も実施し、希望者のニーズに答えたい。

【ハートフル】

隣接する済生会松山病院や老人保健施設にぎたつ苑から在宅復帰される方のワンクッションになれるよう、両施設と引き続き連携を密にとっていく。

また、済生会以外の施設との連携も増やすことで、よりニーズにあった医療・福祉サービスを入居者が享受できるよう支援する。

【ワークステーションなでしこ】

現在の職員のなかで、松山市や松山記念病院、その他の外部研修へ積極的に参加したり、内部の有資格者による指導を行うことにより、利用者をできるだけ理解し、支援していく。

【松山特別養護老人ホーム】

引き続き、施設のハード利用や、施設の持つノウハウを地域に対して還元する方法を地域包括支援センター等と検討し、実行してゆく。

【姫原特別養護老人ホーム】（ケアハウス含む）

今後は、済生会グループの優位性を活かし、地域連携室との連携を強化し、積極的に営業活動を行い、利用者及びケアプラン等の紹介件数を増やしていく。

【松山乳児保育園】

・地域の方を保育園の行事に招いたり、老人ホームに訪問したりして、保育園が子どもと高齢者との交流拠点となるよう取り組む。

・専門性をもった地域に信頼される保育園として、積極的に子育ての一翼を担っていく。園庭解放、育児相談、育児講座の開催、給食の試食など保育園が親子で遊びに来られる場所になるように門戸を開き、地域の子育て家庭への支援を進めていく。

【今治病院】

引き続き、総合医療支援室のMSWを中心に包括的な支援・サービスの提供に

努める。

また、リハビリ、看護師、介護士、事務、MSW等の積極的な人事交流を行い、人材育成と情報の共有化を図り、総合的な医療・福祉サービスの提供の質の確保を図りたい。

【希望の園】

生活保護受給者をはじめとした生活困窮者に無料低額施設利用を有効に活用することはもとより、社会保障制度の対象外となる方、低額な国民年金受給者、様々な理由により介護・福祉サービスの利用が困難な方に対して、広くサービスの利用を進めることができるよう、今治病院をはじめとするセンター内各事業所、自治体、地域の社会福祉協議会等との情報共有を通じて貢献する。

【今治第二病院】

生活保護の受給者をはじめとした生活困窮者に、無料低額施設利用を促すことはもとより、社会保障制度の対象外の方や低額な国民年金受給者、また様々な理由で介護・福祉サービスの利用が困難な方に対して、広くサービスの利用が受けられるように自治体や各地域の社会福祉協議会と連携して制度の有効な活用を進める。

【西条病院】

当院では、保健・医療・福祉サービス、併設施設では介護サービスを提供できる体制にある。センター内で連携し、地域ニーズに対応した包括的な医療・福祉サービスを提供していく。また、高齢者のみならず、障害者、児童及びホームレス、刑務所出所者等の生活困窮者に対する支援を充実させ、済生会の使命を果たしていく。患者、利用者、行政、外部団体とのつなぎ役として「済生会地域包括ケア連携士」を育成し、地域との懸け橋として役割を果たしていく。

【いしづち苑】

これからますます利用者の在宅復帰が進んでいく中で、当苑は、回復リハ病棟の担当医・看護師・リハビリ職員を交えてのカンファレンスに参加することで回復リハ病棟退院後一時的に在宅復帰に向けて、必要なリハの提供を行うことで、当苑の利用者を増やしたいと考える。

また、当苑は認知症専門棟30床を有しており、ほとんど満床状態となっている。在宅復帰強化型施設を目指す当苑にとっては、いかに認知症利用者を在宅へ誘導できるかがカギを握っている。居宅のケアマネ及び他施設のケアマネ等との連携により、認知症利用者の在宅復帰に寄与したいと考える。

【西条特別養護老人ホーム】

西条医療福祉センターにおいて総合的な医療・福祉サービスを提供するため、地域医療、介護、福祉総合支援室を立ち上げ、地域医療、介護、福祉活動に貢献することを目的とし、定期的に情報交換の場を持っており、今後も積極的に取り組むこととしている。

【小田診療所】

当地域は、過疎高齢化地区であるため、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう包括的な支援・サービス提供が求められることから、そうしたニーズに対応すべく、生活に密着した包括的な医療・福祉サービスの提供を行う。

現在、無料送迎を行っているが、条件の緩和や対象地域の拡大について検討し対応したい。

【ふじの園】

内子町の目指す地域包括ケア体制の強化について理解を深め、情報交換を行っていく。また、入所事業、短期入所事業、通所リハビリテーション事業の特にリハビリ部門の充実と、自治体や地域住民への広報活動に努める。

【緑風荘】

過疎化が進み、独居老人世帯・高齢者世帯が増えている当地域では、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続する事が出来るよう、内子町から見守り推進員が委嘱され、定期的に高齢者宅を訪問している。

当施設でも老人介護支援センターの業務の一環として、小田地区内の高齢者世帯・独居老人世帯を定期的に訪問し実態把握に務めており、サービス提供のニーズがあれば居宅介護支援事業に繋げている。

職員充足計画(介護士)

人

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
にぎたつ苑	38.0	38.0	38.0	38.0	38.0
松山特養	63.0	63.0	63.0	63.0	63.0
姫原特養	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
ケアハウス	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
希望の園	46.0	46.0	46.0	46.0	46.0
いしづち苑	42.0	42.0	42.0	42.0	42.0
西条特養	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
ふじの園	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
緑風荘	13.5	13.5	13.5	13.5	13.5

職員充足計画(保育士)

人

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	18	18	18	18	18

職員充足計画(介護士)

パーセント

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値					

職員充足計画(保育士)

パーセント

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	2. 新たな分野への挑戦
重点項目名	(1) 医療・福祉の周辺分野への取り組み
現状の課題	<p>松山病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山市西部地域は、古くからの港町であり、高齢化が進んだ地域である。 ・住民の経済力は比較的弱い。 ・病院にはノウハウを持った業者などの出入りが多いため地域交流の中心的役割を果たすことができる可能性がある。 ・会議室の低稼働 ・患者ニーズの拡大（志向、安全） <p>にぎたつ苑</p> <p>在宅生活復帰への多面的な方策を模索しており、平成29年度に膀胱用超音波画像診断装置を購入したが、これ以外は、なかなか具体的な方策がみつからず苦慮している状況である。</p> <p>松山訪看</p> <p>在院日数の短縮もあり、入院中の状況や退院後の状況がわからないまま退院になっていることが多い。</p> <p>ハートフル</p> <p>当施設は、本来的には医療施設でもなく福祉施設でもなく、島嶼部から松山病院へ通うことが困難な退院患者に対して安心して在宅復帰が可能となるまで短期間居住してもらう病院と自宅の中間施設的な趣旨で考えていたが、近時では高齢者や障害者が長期間入居することが多くなり、老人入居施設的な趣が濃くなっている。</p> <p>WSなでしこ</p> <p>精神障害に発達障害が含まれ、当施設も発達障害の利用者が増加している。対応がむずかしく、精神障害者のケアをするための専門の資格を持つ職員が少ない。</p> <p>松山特養</p> <p>現在、デイサービス及び訪問介護において介護保険外の有償サービスを提供しているが、今までは要支援者のサービスニーズに応じて、介護保険で対応できない</p>

部分として補足的にサービスを行ってきたが、金額設定等の制限も多く、ニーズの拡大に至っていない。

姫原特養（ケアハウス含む）

現在、デイサービス及び訪問介護において介護保険外の有償サービスを提供しているが、今までは要支援者のサービスニーズに応じて、介護保険で対応できない部分として補足的にサービスを行ってきたが、金額設定等の制限も多く、ニーズの拡大に至っていない。

保育園

福祉ニーズの多様化・複雑化、人口減少といった、福祉分野を取り巻く課題に加えて、地域的には高齢化、人口減少、核家族化が進んでいる。地域の中で誰もが分け隔てなく支え合い、そのニーズに応じた子育て支援をどう展開していくかが課題である。

今治病院

予防医療の高まりと質の向上の課題解決を目的に平成27年5月に圏域内初となる健診センターをオープンした。1日受診定員は45名である。しかし、健診事業はどうしても午前中が中心となるため、非常勤医師が中心となり定員増加が難しく、健診医師の確保の問題、健診レベルの向上が課題となっている。

現状の課題

希望の園

重度の要介護者を抱える家庭には、老人保健施設が進める『在宅復帰』の理解を得にくいことがあり、当施設においても特別養護老人ホームへの入所を控える方の待機施設になっている側面がある。日常業務についても、要介護者の健康維持と日常生活（食事・入浴・排泄等）への介護がメインとなっており、利用者本人、ご家族のストレスの軽減、介護に対する不安解消といったサポート的な活動が十分に展開できていない。

今治第二病院

看護・介護の不安等に対する家族への支援体制が充分とは言い難い。

西条病院

経済社会情勢の変化により、単独世帯の増加や社会的に孤立する人々が増加している。当院を受診する患者について、医療のみならず生活面の支援が遅れているケースが見受けられ、地域として十分に対応できていない。

いしづち苑

第1期中期事業計画については、離職防止の観点から、余裕を持った人員配置

に取り組み、夜間勤務（4人超）の負担軽減に取り組んだ結果、人件費比率は70%を超えており、経営の状態は非常に厳しい状況にある。今後の医療報酬・介護報酬改定の動向によっては、今後も同じような状態、もしくはさらに厳しい状況で推移する可能性がある。ここ数年の医療・介護報酬改定は、在宅への移行が年々加速してきている。安定した収入を確保するためには、在宅移行した患者や利用者の安全で安心した在宅での生活を提供することが、安定した利用者の確保につながってくる。幸いにも当苑は、訪問介護事業、通所リハビリテーション事業を提供しており、充実した在宅サービスが可能な施設である。実践研修や実地研修による介護職員の施設内での質の向上は、これまでどおり行っていく必要があるが、これからは、地域あるいは在宅での生活支援に秀でた職員の育成に努め、地域包括ケアシステムの要である、介護支援専門員及び社会福祉士を採用し、在宅介護支援に特化した人材育成に努めたいと考える。

西条特養

現状では、在宅支援、施設本来の介護サービスしか提供できておらず、周辺分野への貢献ができないか検討を重ねている。

現状の課題

小田診療所

当所は、愛媛大学と内子町の連携により開講された「地域生活習慣病・内分泌学講座」のサブセンターに位置付けられ、生活習慣病、特に糖尿病に起因する疾患について、小田地区においては自治体単位で「地域健康教室」を開催し、地域住民の意識を高め生活習慣病の減少に力を入れてきた。今後は、内子町の協力を得て、地域健康教室を内子地区・五十崎地区に広げることが課題である。

ふじの園

ふじの園が提供するサービスは介護保険関連事業が中心であり、多種多様に複雑化した地域住民のニーズには応えきれていない。

緑風荘

当地域には、済生会が運営する老健、特養が各1施設。他に民間のグループホーム（2ユニット）が存在するのみである。居宅サービス事業においては競争相手がない独壇場である為、マンネリ化や驕りがいないか利用者目線で点検する必要がある。

実施計画

1990年代以降のわが国においては、経済社会情勢の変化により、単独世帯の増加や地域との結びつきの希薄化が進み、社会的に孤立する人々が増加している。

このように孤立した人々は、医療、福祉、就労、教育、経済等の多種多様に複雑化した問題を抱え、治療のみならずあらゆる援助が必要な立場であるが、現状の病院、福祉施設が提供するサービスでは、そうした人々が抱えるニーズに十分に対応できていない。

そこで、本会の病院、福祉施設は、そうしたニーズを的確にとらえ、行政、NPO、ボランティア等の各種団体と連携し、施設の空きスペース等を活用しながら、地域住民の拠り所としての機能を果たし、家族関係の調整、就労機会の提供、住まいの確保、教育支援等の総合的な支援体制を整備する。

松山病院

- ・地域の専門業（金融・通信・薬局・ケアマネージャー等）、とのコラボレーション

- ・会議室の有効活用（情報発信の場）
健康教室・勉強会・情報交換会等

にぎたつ苑

平成29年度に膀胱用超音波画像診断装置を購入し、利用者の膀胱内の尿量を測定することで排尿タイミングを把握し、トイレでの排尿を促す試みをしている。これにより、在宅に復帰しても家族が高齢者の排尿タイミング時にトイレに誘導することが可能になり、それによってオムツからの離脱がスムーズに行え、より快適な在宅生活を送れることになる。その他にも、訪問リハビリテーション事業、訪問指導により一層力を入れ、利用者の自宅を訪れる機会を増やすことで、より多面的な情報を入手し、訪問介護等との連携を図りながら、利用者、家族にとっても快適な在宅生活を送れるようサポートしていく体制を構築していくことに注力する。

松山訪看

病院も退院支援加算Ⅰをとるところが増えており、早期から退院に向けての支援が行われるようになっている。退院前カンファレンスや退院前後に訪問指導を実施する病院もある。訪問看護としても、早期からの関わりを重視し、入院中から情報を共有できるような体制作りが必要である。

がん患者に関しては、緩和ケアチームの活動に参加して、在宅緩和ケアの提供がスムーズに行えるようにする。また、退院後に状態が安定しない患者に対しては、地域の往診医を依頼して医療体制を強化できるように病院に働きかける。介護職のケアマネージャーが増加しケアプランに訪問看護の参加が少ない事から、生活の中の医療を支える訪問看護の成果を発表して、必要性を伝えていきたい。

実施計画

ハートフル

当施設が行う在宅復帰のための住居提供は、直接的な医療でもなく福祉でもない正に周辺分野への取り組みにあたる。施設や地域の実情を踏まえ、人員体制や業務の変更も視野に入れつつ、利用者のニーズにあった形態に再構築する。

WSなでしこ

今、現在の職員のなかで、松山市や松山記念病院、その他の外部研修へ積極的に参加したり、内部の有資格者による指導を行うことにより、利用者をできるだけ理解し、支援していく。

松山特養

現時点で新たな福祉分野への取り組み予定はないが、新たな地域のニーズに対応するために臨機応変に新規事業を検討してゆく。

姫原特養（ケアハウス含む）

実施計画

介護保険が適用されるサービスと保険外サービスを組み合わせる「混合介護」について、厚生労働省は緩和の方向で議論しており、利用者の実情を踏まえ、新たなサービスを展開できるよう検討していく。

保育園

高齢化、人口減少が進む地域の中で、子どもや若者、高齢者の方々が楽しく安心して、暮らしてもらえる包括的な福祉サービスとして、地域の方を保育園の行事に招いたり、老人ホームに訪問したりして、保育園が子どもと高齢者との交流の拠点となるよう取り組む。

少子化、核家族化の進展、地域連携の希薄化、女性の就労形態の変化等により子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化し、多様化しているため、専門性をもった地域に信頼される保育園として、積極的に子育ての一翼を担っていく。園庭解放、育児相談、育児講座の開催、給食の試食など保育園が親子で遊びに来られる場所になるように門を開き、地域の子育て家庭への支援を進めていく。

今治病院

定員の大幅な増加は難しいため、さらなる質の向上のため、PET-CT健診など付加価値の高い健診者の取り込みを図りたい。神経内科等の領域のカバーを図ることのできる健診医師をできるだけ確保することで、受診結果説明の充実を図り、病気の予防啓発と要再検者へのスムーズな受診案内と受診行動を促したい。

必要なシステムの導入を図り、健診結果のデータベースを解析することで、圏域内の健診事業の中心的役割を果たすなど、地域貢献したい。

また、健診、保健指導システムを見直し、新構築に取り組む。

希望の園

地域の高齢者への生きがいつくりの場（体操教室、クラフト教室等）の提供、ご家族の介護に対する負担軽減と情報交換を目的とした介護教室、介護者のサロンを展開し、地域の理解を得たい。

また、高齢者が長期的に施設入所することより、家庭や地域社会から疎外されてしまう可能性があることを踏まえ、在宅での生活を想定した介護・援助サービスとご家族への介護技術指導等を積極的に進める。

今治第二病院

利用者家族向けに介護教室を行うことで、家族の方にも介護の知識や情報を持っていただく。また、教えることで、職員のスキルアップにもつなげる。

西条病院

行政、NPO、ボランティア等の各種団体と連携し、社会的に孤立した人々の拠り所としての機能を果たしていく。また、患者等のニーズに対応するため、地域住民や社会福祉協議会、民生委員等の専門職団体とかかわりをもち、就労、教育、経済等の多種多様な問題についても、総合的に支援できる相談員を配置する。

いしづち苑

施設介護については、毎年アセッサー評価を行い個々の介護の技術向上に努めており、今後も質向上のため続けていきたい。

また、昨年度から本部で開始した済生会地域包括ケア専門士養成研修（1名取得済み）に、当苑併設の居宅介護支援事業所の介護支援専門員もしくは入所利用者担当の介護支援専門員を参加させ、毎年1名の資格取得者を目指す。

さらに、認知症に関しては、当苑は認知症専門棟（30床）を有しており、県の推薦を受けた職員が、地域に貢献するために認知症介護指導者養成研修を受講し、地域における認知症介護の先駆者的役割を担う施設になるよう努めたい。

学会の発表については、これまでしばしば全国老人保健施設大会でも発表等を行っており、30年度からは毎年1件～2件の演題を学会に提出したいと考える。

実施計画

西条特養

まずは、地域におけるニーズを吸い上げ、地域住民が何を望んでいるかを第一に考え、その後計画を立案することとする。

小田診療所

小田地区では、自治会単位で地域健康教室を開催し、地域住民の意識を高めることができた。特に糖尿病においては平成24年度に高血糖と診断された方のその後の変化を調べるとほとんどの人の数値が下がった結果もあり、小田地区以外の内子・五十崎地区においても自治体単位で地域健康教室を開催し、生活習慣病に対する意識を高め、地域の健康増進について一躍を担う。

実施計画

ふじの園

行政、NPO、ボランティア等の各種団体と連携し、施設の空きスペース等を活用しながら、地域住民の拠り所としての機能を果たし、家族関係の調整等、支援体制を整備する。

緑風荘

現状、利用者・家族よりサービス提供時間等の要望はないが、就業しながら家族を介護している家庭ではデイサービスの時間延長等のニーズが発生する可能性もあるので、柔軟に対応できるよう努めたい。

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	2. 新たな分野への挑戦
重点項目名	(2) まちづくりへの寄与
現状の課題	<p>【人口動態】 日本全体が人口減少に突入した中で、愛媛は昭和60年を直近のピークに既に人口減少が進んでいる。平成27年10月1日現在の愛媛県の人口は、1,385,262人（男性654,380人、女性730,882人）で、昭和22年以降、初めて140万人を下回った。今後人口減少のピッチが早まり、これまで以上に地域間格差の拡大や経済活動の低迷が懸念される。</p> <p>生活経済圏別にみると、松山圏が646,055人で最も多く、県総人口の46.6%を占めており、以下、新居浜・西条圏228,077人、今治圏165,249人、八幡浜・大洲圏144,324人、宇和島圏114,144人、宇摩圏87,413人となっている。松山、新居浜、西条は人口の減少が比較的少ないが、各都市の周辺には人口減少の進む地域が広がり、都市中心部と周辺との格差が拡大することが予想される。</p> <p>愛媛県の人口を年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が169,110人、15～64歳の生産年齢人口が776,111人、65歳以上の老年人口が417,186人で、総人口に占める割合は、それぞれ年少人口が12.4%、生産年齢人口が57.0%、老年人口が30.6%となっている。生産年齢人口が6割を切り、65歳以上人口が総人口に占める割合である高齢化率は3割を超えた。</p> <p>【各施設が置かれた環境】 松山病院、今治病院、西条病院はそれぞれ地域の中核病院として救急医療等により地域に貢献しているが、どの病院とも200床未満である。また、これら3病院以外の医療・福祉施設はより規模が小さく、体力的には厳しいところもあるが、それぞれの施設の果たすべき役割に応じたまちづくりへの寄与を検討していく必要がある。</p>
実施計画	<p>地域での小さな活動から参加し地域との関わりを深め、信頼される施設を目指してゆくこととし、多くの施設では、利用者家族のみならず近隣住民も対象とした健康教室や介護教室を開催することや地元の祭りへの参加、施設不動産の提供等により、まちづくりへ寄与することとしている。</p> <p>また、近隣施設、行政機関、医師会等と連携を図ることでニーズの汲み取りやまちづくりに資する働きかけや提言を行う。</p>

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	3. 経営基盤の強化
重点項目名	(1) 経営の健全化
現状の課題	<p>【増収策】 平成26年度から、ワークステーションなでしこ、西条特別養護老人ホームを新設した。</p> <p>平成28年度決算は、病院は診療報酬改定の影響により軒並み赤字となった。老人福祉施設は競合する施設の増加による利用者の減少が顕著であった。</p> <p>【費用削減策】 赤字が続いていた高浜診療所を平成29年3月31日をもって廃止した。</p>
実施計画	<p>少子高齢化による人口減少や財政健全化による社会保障費圧縮等、医療、福祉を取り巻く環境はますます厳しくなる中で、本会の使命を実現しながら、持続可能な組織として更なる成長を進めていくためには、経営の健全化（黒字化）は必要不可欠である。本会の社会的使命を果たすために必要となる安定的な資金、及び更なる成長を進めていく上で必要となる再投資のための資金を確保するため、本会病院、福祉施設は、収益の確保、費用の見直しを行い、経営の健全化を図る。</p>

病院の当期活動増減差額

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山病院	1,454,000	8,156,000	8,447,000	16,140,350	17,735,000
今治病院	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000	50,000,000
今治第二病院	30,000,000	30,000,000	31,000,000	31,000,000	31,000,000
西条病院	24,000,000	30,000,000	35,000,000	40,000,000	45,000,000
計	105,454,000	118,156,000	124,447,000	137,140,350	143,735,000

老健の当期活動増減差額

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
にぎたつ苑	9,000,000	9,000,000	9,000,000	9,000,000	9,000,000
希望の園	1,000,000	1,500,000	1,600,000	1,900,000	2,200,000
いしづち苑	2,000,000	2,000,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
ふじの園	7,332,000	5,952,000	4,695,000	3,811,000	2,919,000
計	19,332,000	18,452,000	16,795,000	16,211,000	15,619,000

特養の当期活動増減差額

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山特養	1,630,000	1,790,000	1,970,000	2,170,000	2,390,000
姫原特養	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000
西条特養	10,000,000	12,000,000	12,000,000	12,000,000	13,000,000
緑風荘	-3,015,000	-3,931,976	-2,633,479	-3,979,307	-3,015,927
計	28,615,000	29,858,024	31,336,521	30,190,693	32,374,073

病院の収益総額

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山病院	5,704,407,000	5,709,386,000	5,706,656,000	5,720,714,350	5,739,269,000
今治病院	7,410,000,000	7,560,000,000	7,710,000,000	7,860,000,000	8,010,000,000
今治第二病院	970,600,000	975,600,000	1,000,600,000	1,005,600,000	1,010,600,000
西条病院	5,015,000,000	5,057,000,000	5,107,000,000	5,157,000,000	5,207,000,000
計	19,100,007,000	19,301,986,000	19,524,256,000	19,743,314,350	19,966,869,000

老健の収益総額

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
にぎたつ苑	704,000,000	704,000,000	704,000,000	704,000,000	704,000,000
希望の園	543,440,000	544,440,000	545,440,000	546,440,000	547,440,000
いしづち苑	420,462,000	423,462,000	425,462,000	427,462,000	430,462,000
ふじの園	158,275,000	158,275,000	158,275,000	158,275,000	158,275,000
計	1,826,177,000	1,830,177,000	1,833,177,000	1,836,177,000	1,840,177,000

特養の収益総額

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山特養	714,210,000	720,623,000	726,376,000	731,452,000	735,834,000
姫原特養	500,700,000	500,700,000	500,700,000	500,700,000	500,700,000
西条特養	621,050,000	626,200,000	631,200,000	633,200,000	636,200,000
緑風荘	198,881,000	197,953,000	197,584,000	197,584,000	197,584,000
計	2,034,841,000	2,045,476,000	2,055,860,000	2,062,936,000	2,070,318,000

当期活動増減差額黒字拠点割合（病院）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100%	100%	100%	100%	100%
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（診療所）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	0%	0%	0%	0%	0%
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（介護老人保健施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100%	100%	100%	100%	100%
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（救護施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（乳児院）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（保育所）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100%	100%	100%	100%	100%
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（児童養護施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（障害児入所施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（養護老人ホーム）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（特別養護老人ホーム）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	75%	75%	75%	75%	75%
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（軽費老人ホーム）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	100%	100%	100%	100%	100%
実績値					

当期活動増減差額黒字拠点割合（障害者支援施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額利益率（病院）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	0.6%	0.6%	0.6%	0.7%	0.7%
実績値					

当期活動増減差額利益率（診療所）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	-46.7%	-54.1%	-14.6%	-14.3%	-20%
実績値					

当期活動増減差額利益率（介護老人保健施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	1.1%	1%	0.9%	0.9%	0.8%
実績値					

当期活動増減差額利益率（救護施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額利益率（乳児院）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額利益率（保育所）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	0.3%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%
実績値					

当期活動増減差額利益率（児童養護施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額利益率（障害児入所施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額利益率（養護老人ホーム）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

当期活動増減差額利益率（特別養護老人ホーム）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	1.4%	1.5%	1.5%	1.5%	1.6%
実績値					

当期活動増減差額利益率（軽費老人ホーム）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	1.1%	2.2%	2.2%	3.2%	3.2%
実績値					

当期活動増減差額利益率（障害者支援施設）

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値					
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	3. 経営基盤の強化
重点項目名	(2) 医療・福祉サービスの質の向上 ① 済生会を支える人材の育成
現状の課題	<p>職員の離職・新規採用に係る人員確保。 職員の高齢化。年齢層のいびつ化。 小規模事業所における職員の代替性欠如。 済生会の職員としての意識の醸成・共有。 研修と人事考課の内容・体制の見直し。 専門的知識の不足。若年職員の育成。</p>
実施計画	<p>良質な医療・福祉サービスを提供するとともに、施設等を健全に経営するためには、優れた人材を採用して、育成していくことが必要になる。 また、各施設では働きやすい職場づくりを推進するとともに、職員のキャリアアップに努める。 各施設は実状に併せて次のような計画を立案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正規職員としての雇用確保。 ・ 定年後再雇用者の待遇向上。 ・ 公平な勤務考課。人事考課の結果を職員にフィードバック。 ・ 勉強会の実施、外部研修への積極的な参加。 ・ 職員育成、スキルアップ、資格取得率向上。 ・ ワークライフバランス、働きがい向上。 ・ 働きやすい職場づくり、福利厚生充実、腰痛予防対策。

学会発表件数

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山病院	51	51	51	51	51
にぎたつ苑	4	4	4	4	4
松山訪看	2	2	2	2	2
ハートフル	0	0	0	0	0
WSなでしこ	1	1	1	1	1
松山特養	2	2	2	2	2
姫原特養	1	1	1	1	1
ケアハウス	1	1	1	1	1
乳児保育園	0	1	0	1	0
今治病院	80	85	90	95	100
希望の園	2	2	2	2	2
今治第二	6	6	6	6	6
西条病院	60	60	60	60	60
いしづち苑	1	2	2	2	2
西条特養	2	2	2	2	2
小田診療所	1	1	1	1	1
ふじの園	1	1	1	1	1
緑風荘	1	0	1	0	1
支部事務局	0	0	0	0	0

学会発表件数

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	216	222	227	232	237
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	3. 経営基盤の強化	
重点項目名	(2) 医療・福祉サービスの質の向上 ②施設・整備の近代化の促進	
第1期での 整備実績	松山病院	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度 電子カルテシステム更新、オーダーングシステム, <input checked="" type="checkbox"/>更新 平成26年度 3TMRI導入、厨房改修 平成27年度 ボイラ設備改修 平成28年度 個室改装。外壁防水改修工事
	にぎたつ苑	<p>平成25年に、温冷配膳車、介護浴槽、送迎車両の購入 平成26年度に、電子カルテ、およびR4システムの導入。増築棟塗装工事の実施。 平成27年度に職員用駐車場用地の購入。 平成28年にデイサービスセンターに介護浴槽の購入。 平成29年に通所リハビリに送迎車両の購入。</p>
	松山訪看	平成28年7月に松山訪問看護ステーション拠点の重量鉄骨二階建物に新築移転した。
	ハートフル	<p>平成26年度 スプリンクラー設備設置 平成28年度 水害被害による一階フロア床材張替工事 平成29年度 東側壁面修繕</p>
	WSなでしこ	<p>平成26年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 済生会高浜診療所2階を賃貸し開業。別に製菓場を賃貸。 <p>平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現住所東山町へ移転(賃貸) ・ 製菓場増設、事務所改修工事。 ・ 松山病院敷地内貸室「なでしこカフェ」設置
	松山特養	<p>[特養] 花壇、倉庫、ガス給湯器、デマンド監視装置、特殊寝台 [デイサービス事業] 特殊浴槽1台、送迎用普通車両2台軽車両2台、乾式ホットパック</p>

第1期での
整備実績

	[デイサービスセンター] 特殊浴槽 1 台、送迎用軽車両 2 台
姫原特養 ・ ケアハウス	<ul style="list-style-type: none"> ・ H 2 5 年度 軽自動車 ・ H 2 6 年度 ケアハウス浴室改修、冷温配膳車 ・ H 2 7 年度 和室改修、給与システム ・ H 2 8 年度 車椅子入浴装置 ・ H 2 9 年度 冷温蔵配膳車 2 台、送迎車両、介護機器、ケアハウスリフト浴
乳児保育園	<p>H26 外壁塗装修繕工事</p> <p>H27 アーケード屋根設備整備工事</p> <p>H27 照明器具（L E D）リニューアル工事</p>
今治病院	<p>平成25年度：緩和ケア病棟建築、電子カルテ導入</p> <p>平成27年度：健診センター建築</p> <p>平成28年度：院内保育所移転新築、サイバーナイフ更新</p> <p>平成29年度：外来棟増改築、電子カルテ更新</p>
希望の園	<p>平成 2 5 年 適時適温食事配膳車の更新、福祉車両更新（2台）、介護請求システム一式更新</p> <p>平成 2 7 年 送迎用軽車両導入</p> <p>平成28年 介護保険支援システム及びPCシステム機器更新、送迎用車両導入</p> <p>平成 2 9 年 介護保険支援システムと今治病院電子カルテシステムの連携接続</p>
今治第二	<p>平成24年度：外来者及び職員用駐車場用地購入並びに整備 他</p> <p>平成25年度：糖尿病関係機器、訪問車、検査オーダーリングシステム 他</p> <p>平成26年度：超音波装置 他</p> <p>平成27年度：自動水栓化、車椅子移動車、送迎車、血球計数機 他</p> <p>平成28年度：防犯カメラシステム 他</p> <p>平成29年度：電子カルテシステム、ベッド型マッサージ器 他</p>
西条病院	特別養護老人ホーム建設地の購入、特別養護老人ホーム及び看護師宿舎の建設、歯科口腔外科新設工事、医療機器はMRI・RIの更新、電子カルテ・医事会計システム更新、歯科医事会計シス

		テム導入
第1期での 整備実績	いしづち苑	平成29年度までに全台（60台）を最新のベッドに入れ替える予定としていたが、収入の減少によりほとんど入れ替えが出来なかった。また、リハビリ機器を重点的に導入を行った。
	西条特養	平成27年2月開設
	小田診療所	LED照明の整備を行う予定としていたが、平成27年5月に無床診療所に転換したことで、夜間の電気使用量が減少となるため、実施しなかった。
	ふじの園	平成26年度 冷暖房設備更新 平成27年度 ナースコール更新
	緑風荘	平成25年度 ボイラー設備を更新 平成26年度 生体情報モニターと軽福祉車両の購入、全館の空調設備と非常放送設備の更新 平成27年度 厨房の空調ダクト・スポットエアコンを設置、ナースコールの更新とPHS設備を設置、新会計システム導入 平成25年度～28年度の4ヵ年において、高圧受電設備を更新 平成29年度 食器洗浄機と保管庫の買い替えとLED照明設置
	支部事務局	特になし。
	整備計画	<p>施設・設備の老朽化を起因としたサービスの質の低下が懸念される。医療、福祉の質を向上させ、患者、利用者の満足度を高めるべく、必要性、採算性、資金調達方法等に留意しながら施設・設備の近代化対策を推進する。</p> <p>特に、本計画以降（平成35年度以降）となるであろうが、病院をはじめ多くの施設でとも建て替えまたは大規模修繕が必要となる。そのため、本計画期間中（平成30年度～34年度）では資金積立、用地確保等を推進する。</p>
松山病院		<ul style="list-style-type: none"> ・平成44年建て替えに向けて資金確保（20億円）必要。併せて、機器更新計画を策定する。 ・平成30年度 1.5TMRI更新計画、ナースコール・PHS設備更新計画 ・平成31年度 LEDに更新計画
にぎたつ苑		建物の経年劣化に伴う補修工事。並行して、機器の更新、および

整備計画

	施設内のIT化を促進するためにモバイル機器やソフトの購入を行う。
松山訪看	特になし。
ハートフル	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 各居室配置の洗濯機の刷新、ナースコール及び電話設備の刷新 ・平成31年度 空調設備の改修
WSなでしこ	今後5年の間で送迎車両を1台購入予定。
松山特養	[特養] 特殊浴槽2台、建物修繕・築15年経過時（H34年）に検討
姫原特養 ・ ケアハウス	<ul style="list-style-type: none"> ・施設進入路法面の工事 ・空調の入替え ・ボイラー関連の見直し ・システム電話及びナースコールの入替え ・建物本体の外壁補修 ・駐車スペースの確保
乳児保育園	特になし。
今治病院	<p>将来的な大型整備に備え、土地を今以上に確保しておきたい。地域医療構想において、救急医療などの高度急性期病棟が必要になる。</p> <p>リニアック、PET-CT、アンギオ、透析装置、CT、MRI等の高額機器の更新時期。</p>
希望の園	平成30年度 特殊入浴装置（車椅子・ストレッチャー）の更新、福祉車両（軽）更新
今治第二	電気設備、給排水設備等、建物関係の改修。
西条病院	建物については、築31年を迎えた病院本館の建替え計画が始まっており、数年後には実現したい。また、それに伴う土地の購入や導入後10年が経過したCTについても更新が近づいている。

整備計画	いしづち苑	訪問介護事業におけるタブレット端末を用いた訪問介護システムの導入、インカムの導入等職員の負担軽減のための整備を重点的に取り組む。 通所リハビリテーション事業の送迎車両買い換え。
	西条特養	特になし。
	小田診療所	特になし。
	ふじの園	平成30年度 エレベータ更新 平成31年度 送迎車購入
	緑風荘	パラマウントベッド買い替えと、送迎や病院受診用の福祉車両の購入を計画
	支部事務局	特になし。

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	3. 経営基盤の強化
重点項目名	(2) 医療・福祉サービスの質の向上 ④スケールメリットを活用した取り組みの推進
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 済生会他施設や事務（部）長会等との交流や情報収集の不足。 ・ 人員不足のため全国的な研修会や学会等への参加が困難。 ・ 共同購入できる対象物や時期が自施設に合わない。 ・ 済生会老健協のオムツ共同購入に全施設が参画していない。 ・ スケールメリットの存在を感じられない。 ・ 保守契約、業務委託、保険契約にもスケールメリットを活かすべき。 ・ 職員の業務量増加に問題がある。
実施計画	<p>済生会は全国に700を超える施設、事業を運営する日本最大の社会福祉法人であるが、このスケールメリットをあらゆる分野で活用するため、本部が主導する共同研究や合同研修、共同治験、共同購入、災害対策等に積極的に参加する。また、支部内でも共同研修や人事異動等も含めた人材交流を検討する。各施設は実状に併せて次のような計画を立案している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本部の共同購入品の積極利用 ・ 共同購入の促進 ・ 人事交流 ・ 済生会経営情報システムの活用 ・ 宿泊が必要な研修にも参加できるよう人員充実

第 2 期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	3. 経営基盤の強化				
重点項目名	(3) 積極的経営の推進				
現状の課題	収益総額				
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	
	松山病院	6,780,230,983	7,994,953,472	6,674,292,796	
	にぎたつ苑	799,881,937	826,269,070	728,883,565	
	(高浜診療所)	45,458,608	41,629,666	12,245,612	H28年で廃止
	松山訪看	291,264,197	222,640,430	191,093,200	
	ハートフル	115,449,056	123,047,648	115,232,566	
	WSなでしこ	19,889,737	52,473,936	64,439,385	H26年度から開始
	松山特養	668,025,240	656,983,880	692,733,500	
	姫原特養	519,300,071	521,561,378	495,601,294	
	ケアハウス	88,910,088	88,122,980	134,521,109	
	乳児保育園	121,049,342	120,681,992	125,121,710	
	今治病院	8,718,995,176	10,721,009,011	9,125,213,980	
	希望の園	509,163,559	547,488,513	531,629,798	
	今治第二	931,964,270	1,021,109,589	921,918,285	
	西条病院	4,913,458,811	5,985,452,303	4,851,017,228	
	いしづち苑	427,268,486	475,169,672	417,231,891	
	西条特養	424,464,364	555,790,155	613,735,286	H26年度から開始
	小田診療所	113,112,609	282,318,004	62,904,955	
	ふじの園	163,309,692	364,872,928	175,099,137	
	緑風荘	215,787,857	846,568,898	187,001,138	
	支部事務局	113,892,891	90,693,820	65,272,427	
	計	25,980,876,974	31,538,837,345	26,185,188,862	
高浜除く計	25,935,418,366	31,497,207,679	26,172,943,250		
平成26年度は旧会計基準					

実施計画	<p>財政健全化による社会保障費の抑制等、医療、福祉を取り巻く環境は厳しい状況下にあるが、複雑化する生活困窮者への支援等を始め、医療・福祉分野において本会が果たさなければならない役割は大きく増大している。</p> <p>そこで本会に期待されている役割に的確に応じるため、「攻めの経営姿勢」で臨み、質の向上、業務範囲の拡大、提供サービス事業量の拡大を図っていく。</p>
------	--

収益総額

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
松山病院	5,704,407,000	5,709,386,000	5,706,656,000	5,720,714,350	5,739,269,000
にぎたつ苑	704,000,000	704,000,000	704,000,000	704,000,000	704,000,000
(高浜診療所)					
松山訪看	191,300,000	191,300,000	191,300,000	191,300,000	191,300,000
ハートフル	118,277,000	118,277,000	118,277,000	118,277,000	118,277,000
WSなでしこ	74,216,000	74,216,000	74,216,000	74,216,000	74,216,000
松山特養	714,210,000	720,623,000	726,376,000	731,452,000	735,834,000
姫原特養	500,700,000	500,700,000	500,700,000	500,700,000	500,700,000
ケアハウス	92,000,000	93,000,000	93,000,000	94,000,000	94,000,000
乳児保育園	125,018,000	125,018,000	125,018,000	125,018,000	125,018,000
今治病院	7,410,000,000	7,560,000,000	7,710,000,000	7,860,000,000	8,010,000,000
希望の園	543,440,000	544,440,000	545,440,000	546,440,000	547,440,000
今治第二	1,000,600,000	1,005,600,000	1,031,600,000	1,036,600,000	1,041,600,000
西条病院	5,015,000,000	5,057,000,000	5,107,000,000	5,157,000,000	5,207,000,000
いしづち苑	420,462,000	423,462,000	425,462,000	427,462,000	430,462,000
西条特養	621,050,000	626,200,000	631,200,000	633,200,000	636,200,000
小田診療所	58,430,000	54,804,000	71,178,000	68,288,000	65,698,000
ふじの園	158,275,000	158,275,000	158,275,000	158,275,000	158,275,000
緑風荘	198,881,000	197,953,000	197,584,000	197,584,000	197,584,000
支部事務局	700,000,000	700,000,000	700,000,000	700,000,000	700,000,000
計	24,350,266,000	24,564,254,000	24,817,282,000	25,044,526,350	25,276,873,000

収益総額の対前年増加率(支部全体)

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
収益総額計画値	0.0%	0.8%	1%	0.9%	0.9%
収益総額実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	4. 済生会ブランドの確立と発信
現状の課題	<p>多くの施設で、ホームページが貧弱であり定期的な更新もできていない。</p>
実施計画	<p>本会の理念や使命を着実に実践し、実績を残すことで、本会に対する認知度が高まり、本会の使命や事業に対する国民の理解も深まる。本会病院、福祉施設等は日々のたゆまぬ努力により、質の高いサービスの提供に努め、本会独自のブランド確立を図る。</p> <p>メディア取材などの宣伝チャンスを逃さないだけでなく、施設ごとにできる範囲で広報誌やインターネット等により情報を発信するほか、施設内外で健康教室や介護教室を開催する等により存在をアピールしていく。</p> <p>また、外部への情報発信だけでなく、情報を役職員に知らせる内部広報も重要である。職員間、施設間のコミュニケーションの増進も図る。</p>

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	5. コンプライアンスの徹底
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設で研修会開催や会議での周知をしている。 ・体制や規程の見直しの必要あり。 ・職員ひとりひとりの理解度・認識度の検証ができていない。 ・意識が徹底されていない。対応は十分とは言えない。 ・障害者雇用が法定雇用数に達していない。
実施計画	<p>近年、企業・団体には、社会的責任を果たすことが要請されており、我が国最大の社会福祉法人である本会も、より一層積極的に社会的責任を果たしていく。</p> <p>平成28年の社会福祉法の改正を踏まえて、会計監査人制度等のコンプライアンス及びガバナンス体制の整備を推進する。</p> <p>については、全施設に対し支部監事により、年に業務監査及び会計監査を1回ずつ計2回行うこととする。</p> <p>取り組みにあたっては、本部が作成したマニュアルやチェックリストを活用するとともに、ISO26000（組織の社会的責任に関する国際基準）及びSDGs（Sustainable Development Goals：国連の持続可能な開発目標）を、社会的責任に関連した項目を網羅した指針として参考にする。</p> <p>特に、障害者雇用に関しては、法定雇用数を下回る施設をゼロとする。</p>

ISO26000に対応した業務を実施している拠点数

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
計画値	19	19	19	19	19
実績値					

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	6. 国際連携の推進
現状の課題	<p>かつて西条において、中国との交流に取り組んでいた時期もあるが、現在は、特段の連携は行っていない。</p>
実施計画	<p>現時点では、具体的な計画はないが、東京オリンピックの開催や訪日外国人の増加などを背景に国際交流への関心が高まっており、国際連携について検討したい。</p>

第2期中期事業計画（支部全体版）

支部名	愛媛県
-----	-----

重点項目区分	7. 災害対策の推進
現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 済生会災害救援活動規則により松山病院が中四国ブロックの準基幹病院に指定されている。 ・ 各施設とも避難訓練を実施しているが、地震等の大規模災害時の災害時連絡や職員参集についての対策が十分ではない。 ・ 水、食料、燃料等の備蓄や救援物資受け入れ体制ができていない施設がある。 ・ 災害対策は施設ごとで行っており、支部全体で施設間連携や備蓄品把握等はできていない。
実施計画	<p>施設はそれぞれ規程、マニュアル、体制、備蓄品を充実させるとともに、災害を想定した避難訓練を実施する。</p> <p>また、南海トラフ大地震を含む大規模災害のリスクが高まっており、支部全体で効果的に対応できるよう支部事務局及び各施設が連携して対策する。</p> <p>各施設では避難訓練、情報伝達訓練を実施するとともに、実状に応じ物資の備蓄、ロジスティック担当者や災害医療に必要なスタッフ等の災害対応人材の養成、災害時支援策も検討する。</p>